

決意を新たに ～新年の抱負～



全員分の抱負を壁に掲げています



目標を文字にすることで実現します！



羽根つきで日本のお正月体験

皆さん、こんにちは。こちらカンボジアでは、日本の寒さが想像できないような暑い毎日です。だんだんと日長くなり、雨も降らないため日中はじりじりとした暑さが続いています。園内の緑を保つため、園では毎日欠かさず朝と夕方に植物に水やりをしています。

今回のDream通信では、子どもたちの新年の抱負について、そして、1月6日、7日に来園があったSAJ教育支援視察ツアーでのことについての2つをお伝えします。

今年の抱負

1月1日、今年も恒例行事として、新年の抱負を書きました。子どもたちの抱負の一部をご紹介します。

「勉強を頑張り、よく働き、保育さんの言うことをよく聞きます」昨年入園したヒアン・モニーレアサー（小学2年生 女子）も、大きな字で、丁寧に目標を書きあげました。

「クラスで1番の成績をとれるように勉強を頑張ります」ブット・ソッリンダー（小学校5年生 女子）は、勉強での目標を具体的に立て、初の1番をとることを誓いました。

「大きい子の言うことをよく聞いて、小さい子の面倒をよく見ます」昨年は年下の子どもが入園しました。ヤン・ヴィサール（小学校6年生 男子）は、お兄さんらしくなることを目標にしました。

「いつも周りの人の気持ちを考えて行動します」カエウ・ニエン（中学校3年生 男子）は、中学校を卒業する年にもう一步成長する誓いを立てました。

「何をするときも、自分で考え自分で決めます」トム・ティアン（高校1年生 男子）は周りに流されてしまいやすい自分を自覚し、自分の意志で物事を決める決意をしました。

「絶対大学に合格します」今年で卒園となるスロン・ヴォッティ（高校3年生 女子）は、難関である医学部を志しています。強い決意を改めて言葉にしました。

文字に表すことで、多くの人に見守ってもらうことができ、



里親様に見守られながら勉強に励みました

子どもたち自身もより明確に目標を意識することができます。子どもたちが目標を常に見据えて努力できるように、2015年も園の職員は子どもたちに伴走していきます。

SAJ教育支援視察ツアー

新年を迎えて間もない1月6日と7日の2日間、SAJ教育支援視察ツアーの参加者様が来園されました。1日目には代表理事と5名の里親様、2日目には計17名の参加者の皆様が子どもたちに会いに来てくださいました。

1日目は、子どもたちがそれぞれの里親様とゆっくり交流し、過ごすことができました。ひさしぶりの再会となった里親様に近況や将来について話したり、一緒に遊んでもらったりしました。小学3年生のダエンは前日の授業中に遊んでいたため、職員から里親様にお願ひし、算数の勉強を見てもらいました。里親様に直接叱咤激励され、これからは毎日頑張ることを約束しました。代表理事との学年ごとのミーティングでは、それぞれの成績と今後の目標や進路について話し合い、成績が良くない子どもは成績を上げることを約束しました。

2日目は、子どもたちがこの日のために練習を重ねてきた伝統舞踊、伝統楽器の披露を行ないました。初めてお客様の前で踊りを披露する子どもたちも、緊張の面持ちながらも皆最後まで踊りきることが出来、参加者の皆様から大きな拍手をもらおうと、とても嬉しそうにしていました。

この日は、プノンペン大学に通うナウ・スレイノイ、ポウ・ソペアックの2人も久しぶりに園に遊びに来ました。

実は今回、ソペアックの大学入学祝いをするために内緒で準備をしていました。食事会の後、照明を落とし、司会の子どもがパーティーの開会を告げました。子どもたち、職員、お客様総勢100名を超す盛大なパーティーです。クメール語で「入学おめでとう！」と書いた横断幕が登場し、手作りのメダルや歌など、精一杯の気持ちを贈りました。そして、パーティーの目玉は代表理事が持ち登場した100人用の巨大ケーキです。

自分が祝われるとは思っていなかったソペアックは皆の期待通りとてもびっくりし、涙し笑顔し終始大忙しでした。そして、これまでの園での生活、これからもいろいろなことに挑戦出来ることの感謝を、代表理事やお客様にも直接伝えることが出来ました。その様子を見守り、またプノンペンで日々頑張っているソペアック、スレイノイの話の直に聞くことができた子どもたちは、自分の将来をより具体的に描くことができたのではないかと思います。

今年は7名が大学入学を目指しています。希望の笑顔を湛えながら大きなケーキを分け合って食べるこの光景も、毎年の恒例になることを願っています。



中学卒業後の進路について話しました



練習した成果を披露



ソペアック入学おめでとう！